

白石市まち・ひと・しごと創生「第2期総合戦略」(案)に対するパブリックコメントの結果について

1. 意見の募集期間:令和2年12月1日(火)～12月21日(月)
2. 意見の応募者数・件数:2名(7件)
3. 意見の提出方法内訳:持参:1名 電子メール:1名 計2名

No.	項目	意見の要旨	市の考え方
1	全体事項 関係人口	「関係人口」という非常に定量化しにくい曖昧な表現を多用しているように感じます。これだけ「関係人口の拡大」を多用するのであれば、KPIに設定すべきです。例えば、修正地域参画総量指標(mGAP)で定量化を目指してみるのも良いと思います。	修正地域参画総量指標については、各自治体において、「シティブロモーション」の成果を検証する指標などで利用されていることは承知しております。本市においては、「第2期総合戦略」で、具体的施策として初めて「シティブロモーション」を主な実施事業に追加しました。「修正地域参画総量指標」についても評価方法の1つとして検討してまいります。
2	基本目標1	(仮称)白石中央スマートインターチェンジの早期完成とともに、ドックランや道の駅、レストランなどを整備してはどうでしょうか。また、商店街は空き店舗が多いので、民間のテナントやシャッターアートなど、これまで以上に取り組んで欲しいと思います。	令和2年10月に新規事業化が決定された(仮称)白石中央スマートインターチェンジは、幹線道路の渋滞緩和のみならず、企業誘致の促進、中心市街地の賑わい創出や交流人口の拡大、観光産業活性化に大きく寄与するものと考えております。関係機関の皆様のお力添えをいただきながら、早期実現に向け鋭意取り組んでまいります。
3	基本目標1 数値目標	基本目標1のキーワード「稼ぐ地域」を評価するKPIとして「市民税均等割納税義務者数」、「法人市民税均等割納税義務者数」をあげていますが、「市民税所得割額」と「法人市民税法人税割額」を合算した額をKPIにすれば、地域の稼ぎを評価できるのではないのでしょうか。	基本目標1では「稼ぐ地域をつくるとともに、安心して働けるようにする」と副題に掲げておりますが、人口減少が急速に進展する中、「働く人の数」の維持、「働く場所の維持」が安心して働ける基盤と考え、人口に対しての働く人の数の割合を維持することを目標として「住民基本台帳人口における市民税均等割納税義務者数の割合」、「法人市民税均等割納税義務者数」を数値目標として設定しております。
4	基本目標1 名産品や伝統 工芸の後継者 育成	事業の成果を評価するKPIを設定しても良いのではないのでしょうか。例えば、伝統工芸に従事する人数または平均年齢。業界が若返れば伝統工芸が持続可能であると評価できるのではないのでしょうか。	「伝統工芸などの後継者育成」については、「第1期総合戦略」のKPIに計上し、計画期間終了後においても検証を行っております。「第2期総合戦略」の基本目標1に新たなKPIを計上し、「第1期総合戦略」のKPIと合わせ、多面的に講ずべき施策の検証を行ってまいります。
5	基本目標1 KPI	地域おこし協力隊の隊員数をKPIに設定していますが、事業概要に「任期終了後も地域に定着して取り組む地域おこし協力隊員を支援」とありますので、任期終了後の定着率をKPIにした方が良いと思います。数を増やしても定着しないのであれば持続的な活性化につながらないと考えます。	本市の地域おこし協力隊制度は、平成30年度から開始し、令和2年度末をもって第1期地域おこし協力隊隊員が任期満了となります。地域おこし協力隊制度の導入は、地域活性化の促進のほか、隊員の定住を目的としております。KPIについては、本市の「地域おこし協力隊」制度の目的を図る指標として、より深化した内容と考えますので、パブリックコメント募集時にKPIとして計上した「地域おこし協力隊の隊員数」を「地域おこし協力隊員の定住者数」に見直しました。 【修正箇所】基本目標1 重要業績評価指標(KPI)「地域おこし協力隊員の定住者数」 目標値:6人

No.	項目	意見の要旨	市の考え方
6	基本目標2	<p>移住交流サポートセンターがメディアで紹介されているので、たくさんの方々の交流の場として、利用していただきたい。</p> <p>しろいしマルシェや地域おこし協力隊のイベントを開催することで、移住したい方もこれまで以上に増えるのではないのでしょうか。</p> <p>また、シャッターアート、人づくりマップなど、これまで以上に市民などが支援や応援してくれるよう応援会(仮称)のメンバーを募集してみてもどうでしょうか。</p> <p>移住交流センター(109-one)を様々な形で利用して、SNSで話題とするのも良いかもしれません。</p>	<p>白石市移住交流サポートセンターは、市外在住者の市への移住・定住を促進するとともに、市外から市に移住定住された方と市民との交流を総合的に推進する施策を実施する拠点施設として設置しました。</p> <p>また、地域おこし協力隊についても、移住・定住や地域活性化などを促進し、本市の魅力発信に欠かせない存在であると認識しております。</p> <p>今後も双方の取り組みを強化し、本市の魅力を高めてまいります。</p>
7	基本目標2 KPI	<p>移住交流サポートセンター109-oneの事業を評価するのに相談件数では不十分だと感じます。移住者を増やすのが目的だと思いますので、「相談からの移住者数」をKPIとするのが良いと思います。</p>	<p>移住サポートセンター109-oneの相談件数については、業務の日報などで管理し、確実に数値を把握することが可能ですが、相談からの移住者数については、移住の際に移住交流サポートセンター109-oneを介さずに転入を行う方も想定されるため、「第1期総合戦略」においては、定住者補助金の受給者数をKPIとしておりました。</p> <p>「第2期総合戦略」においては、人口ビジョンの改訂を行いました。将来人口は依然として厳しい想定となっています。</p> <p>このことから移住交流サポートセンター109-oneの移住相談や移住・定住に関する施策の展開などにより、人口ビジョンから「想定される転入の減少、転出の増加」を改善したいと考え、【数値目標】に「転出超過数の改善」を計上し、総合的に移住・定住施策の効果を検証してまいります。</p>

※個人に関するご意見については、掲載しておりません。